

# 愛知の土地改良

第185号

平成28年1月1日



## 課外授業(新城市)

第14回あいちの農業・農村フォトコンテスト  
水土里のフォト大賞作品

□ 新年を迎えて 会長 神谷 金衛	2
□ 新春を迎えて 愛知県知事 大村 秀章	3
□ ご挨拶 愛知県農林水産部農林基盤局長 山本 信介	4
□ “闘う土地改良”の先頭に立って 全国水土里ネット会長会議顧問 進藤かねひこ	5
□ 叙 紲	6
□ 農業農村整備の集い	6
□ 平成28年度農業農村整備事業に関する重点要請活動を実施	8
□ 農業用排水機器移管期成同盟会要望活動	10
□ 第38回全国土地改良大会 青森大会	10
□ 農地・水・環境のつどい 開催	12
□ 水土総合強化推進事業情報	12
□ 研修会	14
□ 入鹿池が「世界かんがい施設遺産」に登録	16
□ 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015	17
□ 第14回あいちの農業・農村フォトコンテスト	18
□ お知らせ	19
□ 迎 春	20

# 新年を迎えて



愛知県土地改良事業団体連合会

会長 神谷 金衛

年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様方には、新年を迎え益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素は、本会の運営及び農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り深く感謝いたします。

さて、昨年は国内外で大きな枠組みの合意形成がなされ、国際平和支援法・平和安全法制整備法からなる平和安全法制やマイナンバー法の成立、また、世界に目を向ければ196の国と地域が初めて温室効果ガスの削減に取り組むCOP21で歴史的な合意が採択されました。6月には、政府の経済財政運営の指針となる骨太方針に「土地改良事業については、高付加価値化・生産コスト削減に資する農地の大区画化・汎用化や維持保全等を一層推進する。」と強い表現が盛り込まれました。そして、我々土地改良関係者にとって一番の出来事が、10月に米国アトランタで開催された環太平洋経済連携協定(TPP)閣僚会合において、TPP協定が大筋合意されたこと 것입니다。

TPP協定の合意等もあり、昨年12月には、平成27年度農林水産関係補正予算として、農業農村整備事業関係予算990億円を組み込んだ総額4,008億円が、また同月、平成28年度農業農村整備事業関係予算についても、対前年比106.5%(232億円増)の3,820億円がそれぞれ閣議決定され、このような高い伸び率の補正及び当初予算が示されたことは、今後の事業推進に大きな期待を寄せているところでございます。

本県は、先人たちによる木曽川・矢作川・豊川の三大水系を中心として大規模水利事業を展開してきたことにより、農業産出額は常に上位を維持

する全国でも有数の農業県であります。その一方で、我が国最大規模のゼロメートル地帯を有する特殊な事情を抱えており、防災・減災に資する農業用施設の耐震化・更新整備は喫緊の課題であります。さらには、農業従事者の高齢化や減少とともに、担い手不足等による農地、農業用水の管理や営農の継続への影響など多くの課題に直面しております。

また、農村における多面的機能の維持や、農業用水を利用した小水力発電等の再生可能エネルギーの導入など、農村資源の保全とその豊かな恵みを活用していく必要があります。これらを推進していくためにも、計画的かつ着実に農業生産基盤の整備を進めていかなければなりません。

本会といたしましては、こうした課題や地域のニーズに対して、農業農村整備事業を加速させ、地域の要望を十分に満たすことが出来るよう、引き続き、会員の皆様と連携して効率的・効果的な農業農村整備事業を展開していくことが私どもの責務と考えております。

そして、忘れてはならないことは、幾多の多難を乗り越え、水を引き、農地を拓いてきた土地改良区が地域の農業を支える要となっていることを広く県民に認識していただきなければならないと思っております。

今後も鋭意、会員の皆様方のご意見を反映しつつ、役職員が一体となって、業務運営に一層の努力をして参りたいと考えておりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げますとともに、土地改良事業の限りなき発展と皆様の益々のご繁栄を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

# 新春を迎えて



愛知県知事

## 大村 秀章

あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様方にとりまして、輝かしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、リニア中央新幹線、燃料電池自動車FCV、ジェット旅客機MRJという、日本の未来を創るプロジェクトが大きく動き出した年でした。

日本の中に位置する愛知県は、日本一のTechnology(技術)とTradition(伝統)を誇る我が国の産業の中心地、まさに“Heart” of JAPANです。今年は、この愛知の強みをさらに進化させる年にしたいと思います。

2027年度のリニア開業を前に、鉄道・道路などの社会基盤を着実に整備し、「中京大都市圏」づくりを進めるとともに、次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援、さらには農林水産業の振興などにより、愛知の産業力を一層強化してまいります。

また、そのための「人財力」を強化するため、モノづくり人材の育成、女性の活躍促進、高齢者や障害のある方々への支援の充実など、すべての人が輝き、活躍する愛知づくりを進めてまいります。

さらには、福祉・医療、防災、環境、スポーツ、東三河地域の振興などにも力を注ぐほか、5月の伊勢志摩サミットなど様々な機会を捉え愛知の魅力を国内外に積極的にPRしてまいります。

こうした中、農林水産業においては、今年の3月に、2020年度を目標年度とする次期「食と緑の

基本計画」を策定することとしており、TPP協定の発効も見据え、生産者が将来に希望を持てる競争力の高い農林水産業の実現に向けて、先端技術を活用した品質や生産性の向上、多様な担い手の確保・育成、担い手への農地集積、生産基盤の整備、干潟・浅場の造成など、生産現場の強化に取り組んでまいります。

農業農村整備事業につきましては、農業の競争力強化を図るため、担い手への農地の集積や省力化に向けたほ場の大区画化や用排水路の整備等を一層推進してまいりますとともに、地震や豪雨等の自然災害から県民の生命・財産を守るため、農業用排水機場の計画的な更新やため池の耐震対策などを実施し強靭な県土づくりを進めてまいります。

また、農業用水を利用した小水力発電につきましては、県内各所で展開しており、県が管理しています羽布ダムにおきましても、今年、発電施設が稼働する予定であり、これからも積極的に取り組んでまいります。

そして、今年は、あいちトリエンナーレ、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭と続く「芸術・アートの年」です。多様な魅力あふれる文化芸術作品をお楽しみください。

引き続き、「日本一元気な愛知」の実現に全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成28年元旦

# ご挨拶



愛知県農林水産部農林基盤局長

## 山本 信介

あけましておめでとうございます。

愛知県土地改良事業団体連合会におかれましては、神谷会長様を中心に、県政の発展に多大なご支援をいただくとともに、本県の農業農村整備事業の推進に格別なご尽力を賜っておりますことを厚くお礼申し上げます。

さて、昨年10月、世界かんがい施設遺産に入鹿池が登録されました。県としましても、世界的な遺産に登録されたことを大変喜ばしく思います。入鹿池は日本最大級の農業用ため池であり、江戸時代初期の整備以降、古くから尾張北西部の重要な水源として使われてきました。これを契機に、農業用施設の歴史や多様な役割、保全の必要性を、県民の皆様に一層理解いただけるよう努めてまいります。

また、国が昨年3月に閣議決定した「新たな食料・農業・農村基本計画」では、「講すべき施策」の一つに、農業生産基盤整備の推進が位置付けられ、昨年6月に閣議決定した経済財政運営の指針となる「骨太方針」では、初めて土地改良の一層の推進が位置付けられました。さらに、全国土地改良事業団体連合会会長に就任した二階氏は「闘う土地改良」を提唱し、予算獲得に意欲を燃やすなど、全国的に土地改良推進の機運が非常に高まっています。国の平成27年度補正予算では、土地改良事業で990億円を獲得することができましたが、平成28年度当初予算は、概算要求時の1,000億円増額要求を大きく下回ることになりました。愛知県として、引き続き充分な予算の獲得に向け、粘り強く取り組んでまいります。

本県では、近い将来、発生が危惧される南海トラフ地震により甚大な被害が想定されることから、県土強靭化に関する施策を、関係機関相互の連携のもと、総合的、計画的に推進する指針として「愛知県地域強靭化計画」を昨年8月に策定いたしま

した。ため池や農業用排水機場、海岸等の耐震化対策を推進するとともに、減災効果を高めるために、ため池のハザードマップ作りや農業水利施設の浸水・津波避難施設としての利用促進など、地震防災対策の充実に努めてまいります。

さらに、本県では平成23年度に策定した、現行の「食と緑の基本計画2015」に代わる新たな計画として、平成28年度から5年間を計画期間とする「食と緑の基本計画2020(仮称)」を今年の3月に策定することとしており、競争力の高い農林水産業の実現や自然災害に強い農村生活環境の確保に向けて、農業農村整備の着実な推進が必要であり、その実現には、貴連合会の技術力が一層重要となります。

また、貴連合会と県が積極的に推進している農業用水を利用した小水力発電については、昨年までに8地区が稼働を開始しております。8地区目となりました大島ダム発電所の完工式に合わせて、愛知県農業用水小水力等発電推進協議会が作成しました「小水力発電カード」はその希少さが受け、小水力発電の啓発、PRの一翼を担っております。今年は、いよいよ県が管理している羽布ダムでの発電施設が稼働する予定であります。売電収益を農業水利施設の維持管理費軽減に充てることとしており、これを契機として、県内各所に小水力発電が展開されることが期待されているところです。

貴連合会におかれましては、今後とも本県の農業農村整備の推進に一層のご尽力をいただくとともに、これまで培われた知識や技術力を駆使して、多面的機能を持つ農地、農業用水などの保全管理へのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会のますますのご発展と会員各位のご健勝ご多幸をお祈り申し上げまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。

先頭に立って  
闘う土地改良の



全国水土里ネット会長会議顧問

進藤 かねひこ

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年の6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議(全国水土里ネット会長会議)顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km(地球10周分)の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡られ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」であります。その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点

で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

- 1 土地改良の予算確保に全力
- 2 日本型直接支払制度の充実に全力
- 3 災害に強い農山漁村づくりに全力
- 4 自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
- 5 農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

貴県の取り組みも十分勉強させて頂きながら、農業・農村の現場と行政・国政の場とのキャッチボールを主導し、自らがそのボールとなって粘り強く両方の「場」を往復できるように、果敢な中にも謙虚に自己を研鑽し、更に幅広く深く政治活動を前に進める覚悟です。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

# 叙 勲

政府は平成27年11月30日付で平成27年秋の叙勲の受章者を発表した。

本会会員からは2名の方々が受章の栄に浴されました。

このたびの栄えある受章を心からお慶び申し上げ、益々ご健やかにご活躍されますようお祈りいたします。

## 旭日中綬章



小久保 三夫 氏

本会理事

豊川総合用水土地改良区理事長

## 旭日小綬章



川上 万一郎 氏

本会理事

矢作川南部土地改良区理事長

## 農業農村整備の集い

### —農を守り、地方を創る予算の確保に向けて—

11月27日、東京都千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで「農業農村整備の集い」が開催された。

この集いは、全国の土地改良関係者約700名が一同に会し、現下の情勢を共有した上で、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催されたもので、本県からは、神谷金衛会長を始め、本会会員、愛知県より28名が参加した。

冒頭、二階俊博全国水土里ネット会長が、「私は、先般「闘う土地改良」で行くことを宣言しました。予算を減らされて、たたかれても黙っている、じっとしている、そんな土地改良ではいけない。



二階会長挨拶

農林水産省においては、来年度予算概算要求で1,000億円は取り戻さなければいけないという強い熱意に心から敬意を表する。このことは、農業関係の地元の皆さんにも十分ご理解いただい



森山農林水産大臣挨拶



稻田政調会長挨拶

て、二度とこのような状況(政権交代による予算の大幅減)にならないように我々は肝に銘じて頑張ろうではありませんか。」と力強く挨拶された。

続いて森山裕農林水産大臣、稻田朋美政調会長よりそれぞれ祝辞が述べられた。

その後、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤金日子氏から「全国を回って多くの方々から①土地改良予算の確保②日本型直接支払制度の充実③防災対策④美しい農村山村の継承⑤農業・農村の施策に対する国民への理解、といったご意見をたくさん頂戴した。その中で将来的な食料安定供給、食糧安全保障という点から見て、国内の生産力をしっかりと維持し、機能を増進していかなければならぬと感じた。そして、食料供給力の3つの要素は、国内生産力と輸入と備蓄であり、どの要素も大切である。その内、国内生産力はさらに3つの要素からなっていて、農地・水といった農業資源、農業就業者、そして農業技術、この3つが1つ

でも欠けると国内の生産はできない。その中でも農地と農業用水は公的な助成をもって今まで維持し、これからもやっていかなくてはならない。この部分をしっかりと予算で手当していかなくてはいけない。土地改良区の方々が、その部分の本当に重大な役割を担っているということをしっかりと踏まえたうえで、土地改良の予算をしっかりと確保して、安定的に食料の生産ができるような体制を作っていく必要がある。」との報告があった。

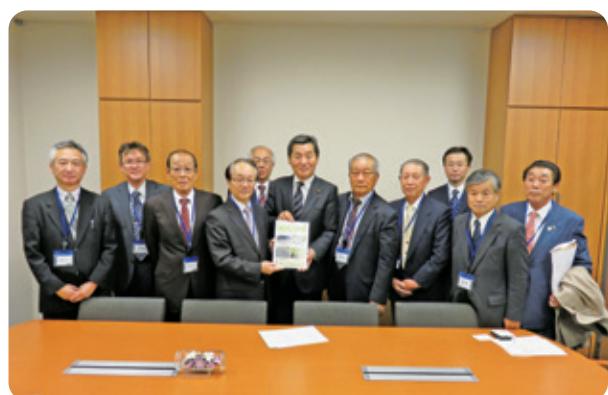
最後に、国に対して予算確保のための要請文提案・採択がなされた。

集い終了後には、愛知県選出の衆参国會議員に平成28年度農業農村整備事業に関する18項目の重点要請を実施した。

なお、当日午前中には神谷会長、青木章雄専務理事、白木実夫代表監事により、農村振興局長始め幹部職員に対しても要請活動を実施した。



進藤顧問状況報告



神田議員に要請書を手交

# 平成28年度 農業農村整備事業に関する重点要請活動を実施

11月18日、平成28年度農業農村整備事業に関する18項目の重点要請を田辺義貴東海農政局长を始め局幹部職員に対し、神谷金衛会長、青木章雄専務理事より実施した。

また、12月9日には平成28年度農業農村整備事業に関する19項目の重点要請を大村秀章愛知県知事を始め県執行部に対し実施した。また、併せて中野治美自由民主党愛知県議員団土地改良議員連盟会長始め連盟役員に対しても要請を行った。



東海農政局幹部への要請

要請書並びに重点要請項目の内容は次のとおりです。

## 要請書

愛知県の農業農村整備事業の推進につきましては、日頃から格別のご理解とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、平成28年度の概算要求におきましては、農業競争力強化のための農地整備や、国土強靭化のための耐震化対策・洪水被害防止対策をはじめとした農業農村整備について、前年度に対し1,000億円の増額を要求していただいていることに、重ねてお礼を申し上げます。

とりわけ、地域の農業農村や住民の生命・財産を守る上で不可欠な農村地域防災減災事業につきましては、対前年比157.8%と大きな伸びとしていただき、地域からも大きな期待の声があがっております。

本県は、我が国最大規模のゼロメートル地帯を有する特殊な事情を抱えており、南海トラフで発生が危惧される大規模地震により、甚大な被害が想定されています。また、近年ゲリラ豪雨等も多発しております。そのため、防災・減災に資する農業用施設の耐震化・更新整備が喫緊の課題であります。

しかしながら、平成27年度の農村地域防災減災事業につきましては、本県への割当額が、前年度を大幅に下回っており、国土強靭化に向け盛り上がる地域ニーズに充分応えることができず、対応に大変苦慮しております。

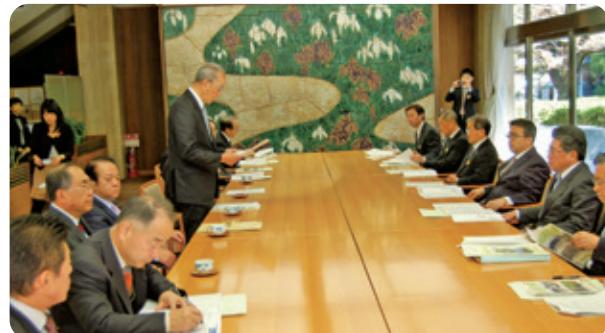
一方で、本県は、県農業生産額で全国3番手グループ、中部地方最大の農業県であり、それを支えるためにも、計画的かつ着実に農業生産基盤の整備を進めていかなければなりません。

また、農村における多面的機能の維持や、農業用水を利用した小水力発電等の再生可能エネルギーの導入

9ページへ続く



大村知事に要請書を手交



大村知事始め県執行部への要請

など、農村資源の保全とその恵みを活用していく必要があります。

今回、こうした課題や地域のニーズに対して、3つのテーマで合わせて19項目の重点要請を行いたいと思います。愛知県土地改良事業団体連合会は、国・愛知県と連携して効率的・効果的な農業農村整備事業を展開していく所存ですので、格別のご高配をお願いいたします。

## 重点要請19項目

### I 國土強靭化に資する農業農村防災対策と力強い農業を支える農業生産基盤の整備について

- 1 農業農村整備事業の当初予算の充実強化について
- 2 農村地域防災減災事業の予算の拡大について
- 3 農山漁村地域整備交付金の予算の拡大について
- 4 海岸整備事業の促進について

### II 暮らしを支える大規模水利施設の計画的な更新整備について

- 1 国営総合農地防災事業 矢作川総合第二期地区の推進について
- 2 国営総合農地防災事業 新濃尾地区の推進について
- 3 国営施設機能保全事業 尾張西部地区の推進について
- 4 地域整備方向検討調査 矢作川沿岸地域の推進について
- 5 水資源機構営 豊川用水二期事業の推進について
- 6 木曽川用水 濃尾第二施設における老朽化対策の実施について

### III 地域ニーズに応じた攻めの農業農村整備事業の展開について

- 1 農地防災事業に係る土地改良法手続きの簡素化について
- 2 農村地域防災減災事業等による耐震対策の促進について
- 3 農地の集積・集約化に向けた農業基盤整備事業の促進について
- 4 特定農業用管水路等特別対策事業の促進について
- 5 多面的機能支払交付金による地域の協働活動の着実な促進について
- 6 発電施設の単独整備事業の創設について
- 7 農業水利施設の適切な維持管理に対する支援について
- 8 県営耐震対策一体型かんがい排水事業の創設について
- 9 単独土地改良事業等の推進について

※農村振興局、東海農政局にはⅢの8までの18項目を要請



中野自民党土地改良議員連盟会長に要請書を手交



自民党土地改良議員連盟役員に要請を行う神谷会長

# 農業用排水機県営移管期成同盟会要望活動

12月9日、農業用排水機県営移管期成同盟会においても白木実夫会長職務代理者副会長(鍋田土地改良区理事長)が、大村秀章愛知県知事を始め県執行部並びに自由民主党愛知県議員団土地改良議員連盟役員に対し、排水機維持管理事業費補助金の予算確保に関する要望活動を行った。



大村知事に要望書を手交

## 要望書

### 排水機維持管理事業に関する要望

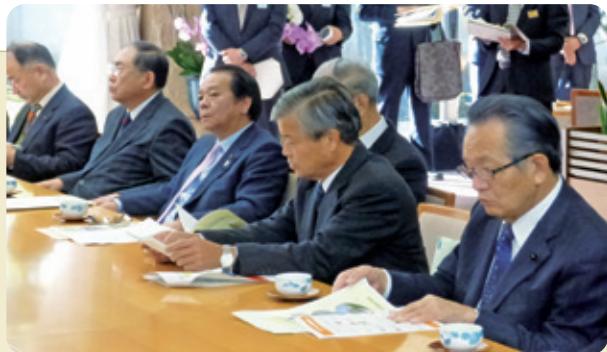
排水機維持管理事業の推進につきましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

農業用排水機場は、農地のみならず住宅地や公共施設用地など地域全体の排水を担っており、その公共性の高さから農業用排水機県営移管期成同盟会は農業用排水機場の県管理を要望してきました。

これに対し愛知県は「直ちの全面的県営管理は不可能」とし、代替措置として排水機維持管理事業を創設したものであります。

しかし、排水機維持管理事業の県補助額については、財政状況を理由に年々縮減され、本来交付されるべき補助額に遠く及ばない状況が続いており、これ以上の縮減は排水機場の適正な維持管理が困難となることが危惧されます。

つきましては、何卒、実情をよくみ取りいただき、排水機維持管理事業の予算確保に特段のお取り計らいをよろしくお願い申し上げます。



要望説明する白木会長職務代理者

## 第38回 全国土地改良大会 青森大会

### ～あづましの風流れる青森大会～ 土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く

- ・ 第38回全国土地改良大会青森大会が、10月15日、青森県青森市の新青森県総合運動公園マエダアリーナにおいて、水土里ネット青森、全国水土里ネットの主催及び農林水産省、青森県等の後援により、大会テーマ「あづましの風流れる青森大会 土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」の下、全国の土地改良関係者約3,500名が参集し、盛大に開催された。
- ・ 大会は、オープニングセレモニーとして、青森

の四季(冬で始まり冬で終わる青森は五季)折々の自然、文化等の映像をバックに、各季節にちなんだ郷土芸能(“冬”は津軽三味線による「津軽じょんから節」、“春”は津軽民謡の「リンゴ節」、“夏”は「青森ねぶた囃子保存会に組」による「ねぶた囃子」、“秋”は太田流津軽民謡手踊会による「津軽よされ節」)にのった「手踊り」)が披露され、参加者を魅了した。

オープニングセレモニーに続き開会宣言、国歌

- 齊唱、その後、野上憲幸水土里ネット青森会長による「豊穣な我が国の農地を、次世代に確実にバトンタッチするために、これまでの経験を活かし、知恵を絞り工夫を重ね、そして「水と土の防人」としての矜持を保って、この難局に処していくましょう。」との開催県挨拶、引き続き、二階俊博全国水土里ネット会長が「明日の現地視察を通じて「土地改良」が今日の青森県農業に果たしてきた役割や、独自に推進されている先進的な取り組みを肌で感じていただき、その上で各地域の課題を如何に解決し、地域農業の再生にどのような貢献が出来るかについて考える絶好の機会としていただきたい。また農業の新しい時代を拓くため、「闘う土地改良」を訴え、成果を認めなくてはならない。」と主催者挨拶、続いて三村申吾青森県知事による歓迎のことば、伊東良孝農林水産副大臣による来賓祝辞の後、大会に参加された来賓の方々が紹介された。



全国水土里ネット会長表彰受章の  
鈴木小切戸用悪水(土)理事長

- 地改良事業団体連合会長表彰に鈴木國一小切戸用悪水土地改良区理事長が表彰の栄に浴された。



ホタテ貝殻を活用した樹園地農道の視察に参加した本会役員



二階全国水土里ネット会長主催者あいさつ  
基調講演では、室本隆司農村振興局次長が、「土地改良は国土づくり」を行い、引き続き、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問が聞き手役となり「東日本大震災、その後の新たな芽生え」として、岩手、宮城、福島の3県の水土里ネットの復旧・復興状況を報告した。

また、青森県内土地改良事業優良事例地区紹介として、水土里ネット北三沢、水土里ネットおにならの2土地改良区より紹介があった。

そして大会宣言として、21年前の「第17回青森大会」において大会宣言を行った地元農家の方と青森県営農大の学生さんの4名により「農業農村の礎である『水・土・里』を健全な姿で次世代に引き継ぐことを『北のまほろば青森』から高らかに宣言する。」と力強い宣言がなされた。

その後の大会旗引継ぎにより、大会旗は次回開催の石川県に引き継がれ、大会は盛会裏に幕を閉じた。

翌16日には、視察研修会が、6コースに分かれ実施された。本会は、青森市内の都市近郊型ほ場整備事業ハツ役地区と、ホタテ貝殻を有効活用した樹園地農道野沢二期地区を視察した。



都市近郊型ほ場整備事業の説明を受ける本会役員

# 農地・水・環境のつどい 開催

12月5日、安城市文化センター／マツバホールにおいて、「農地・水・環境のつどい」を愛知県と水土里ネット愛知の共催で開催した。つどいは愛知県における、地域共同による農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理と質的向上を図る取り組みの一層の普及を図り、県民の理解を促進するとともに、活動組織の意識向上を図るために、他の模範となる優れた活動に取り組む活動組織を表彰することを目的に第1部の優良活動表彰会と第2部の講演会との2部構成により毎年開催している。

今年度は第1部の優良活動表彰会では、田中正剛愛知県農林水産部農林基盤局次長の開会の挨拶の後、愛知県知事賞3組織の紹介と愛知県土連



大村知事による主催者挨拶

会長賞の6組織の表彰ならびに愛知県知事賞受賞組織の活動紹介が行われた。この後、公務により遅れて到着された大村秀章愛知県知事による主催者挨拶、知事賞の授与が行われた。この後、田辺義貴東海農政局長（代読小平均農政局次長）、杉浦孝成県議会副議長による来賓祝辞が述べられ第一部を終了した。

第2部の講演会ではラジオパーソナリティの川本えこ氏による「地域を繋ぐ役割～ラジオの裏側～」と題した講演を行い、最後に、神谷金衛水土里ネット愛知会長の閉会の挨拶で農地・水・環境のつどい全てのプログラムを終了した。

受賞組織は、次のとおりです。



会長賞を授与する神谷水土里ネット愛知会長

愛知県知事賞	
基礎活動部門	出沢里山を守る会（新城市）
農村環境保全活動部門	西尾北部・花と水土里の会（西尾市）
創意工夫部門	桜井北水土里保全会（安城市）

## II 換地関係異議紛争処理対策検討会 II

全国水土里ネット主催による同検討会が、11月20日、愛知県土地改良会館6階第1研修室において開催され、農林水産省、東海農政局、岐阜県、三重県、愛知県、水土里ネットぎふ、水土里ネット

みえ、水土里ネット愛知、水土里ネット滋賀、全国水土里ネットから33名が出席し、事例について説明された後、活発な意見交換が行われた。

### (協議事項)

#### ① 換地を取り巻く状況について

農林水産省農村振興局 土地改良企画課

課長補佐 秋田 憲司

#### ② 換地関係異議紛争事例検討

- ・岐阜県土連：土地境界確認書に承諾を得て工事を施行したが、工事完了後に境界の不満があった事例

水土里ネットぎふ 換地指導課

主事 松本 竜也

- ・滋賀県土連：余裕地の処理と土地評価に対しての異議紛争事例

水土里ネット滋賀 農村管理課

課長補佐 堤 剛

#### ③ 中央換地センター報告

全国水土里ネット 中央換地センター

#### 換地技術者名簿の分析について

参与 田村 栄二

## II 技術力向上事業技術実践研修 II

12月1日から3日までの3日間、本会が主催で開催し、延べ104名が参加した。

本研修は、農業農村整備事業の円滑な実施を図るため、市町村職員及び水土里ネットの役職員の技術力向上を図るべく、水土総合強化推進事業の一環として実施している。

開講にあたり、青木章雄専務理事が挨拶を述べ、続いて来賓としてご臨席いただいた尾畠厚志



青木専務理事による開講挨拶

愛知県農林基盤局農地整備課主幹より挨拶を頂き、研修に入った。

講師は、東海農政局、愛知県、水資源機構中部支社から、下記カリキュラムにあるように当該事業を直接担当されている方々をお招きし、それぞれの内容で具体的に指導いただき有意義な研修となつた。



豊川用水東部幹線水路二川発電所（豊橋市）における現地研修

### ※カリキュラム

月日	研修科目	講 師（敬称略）
12月1日	農業農村整備を取り巻く最新の動向と施策	東海農政局農村振興部 設計課 課長補佐(土木技術) 石田 幸広
	会計検査の動向等	東海農政局農村振興部 設計課 工事検査官 西川 亮治
12月2日	新たな食料・農業・農村基本計画に基づく今後の展開	東海農政局企画調整室 室長補佐(基本計画推進) 赤松 大暢
	土地改良施設管理者における業務継続計画(BCP)	東海農政局農村振興部 防災課 課長補佐 児玉 研悟
	ストックマネジメントの取り組み	東海農政局農村振興部 水利整備課 施設機能保全係長 天野 知彦
	農地中間管理機構の現状と農業農村整備事業との関連	愛知県農林水産部農林基盤局 農地計画課 主査 松崎 則明
12月3日	豊川水系における小水力発電施設導入の取組について	独立行政法人水資源機構 豊川用水総合事業部 調査設計課 班長 山田 英和
	小水力発電施設現地研修大島ダム発電所、二川発電所	独立行政法人水資源機構 豊川用水総合事業部 調査設計課 班長 山田 英和

## ■ 水土里ネット事業視察研修会 開催

10月6日～7日にかけて、農業農村整備事業の推進を図るため、6日には、富山県高岡市において、「福岡町土地改良区の県営経営体育成基盤整備事業(農業生産法人等育成型)江尻地区」及び「国営庄川左岸農地防災事業 岸渡洪水調整池(太陽光設置施設等)を、7日には福井県坂井市において「国営九竜川下流農業水利事業 十郷用水路調圧水槽他」の事業視察研修会を開催した。

研修会には、56名が参加し、1日目最初の視察場所では、福岡土地改良区の青木紘理事長、浦田稔事務局長、「江尻地区」事業推進委員会の大道儀三郎委員長より、土地改良区の概要、江尻地区の事業概要等の説明を受けた。江尻地区のほ場整備事業は、標準区画1haに再整備された農地の集団化や作業の効率化などを図るとともに、農業経営の体質強化としての農事組合法人を立ち上げ、安定的な営農を目指しているということであった。次の視察場所では、北陸農政局庄川左岸農地防災事業所の片山靖志調査設計課長より、売電による資金の運用や維持管理のほか調整池の平常時における活用などの説明を受けた。



福岡町(土)県営経営体育成基盤整備事業「江尻地区」



岸渡洪水調整池 太陽光設置施設

2日目の視察場所では、北陸農政局九頭竜川下流農業水利事業所の西岡伸調査設計課長、三田辰夫技術専門官、山本孝雄管理課長より、十郷用水路調圧水槽、春江北部用水路調圧水槽内を視察しながら詳細に説明を受けた。

参加された方々は、それぞれの立場から熱心に視察され、地域での農業農村整備事業の推進の参考にしていた。研修会終了後のアンケートには「大変有意義な研修会であった。」と、ほとんどの方から意見をもらい大変充実した研修会であった。



十郷用水路調圧水槽

## ■ 水土里情報システム応用操作研修会 開催

水土里情報システムは本年5月より新システムの運用を開始し、5月11日～20日に基本機能について操作研修会を開催した。今回は、更にシステムの活用を進めるために9月14日～17日に応用操作研修会を開催した。

### 《活用データの投入について》

活用データを投入するには、属性を一括修正する手順で、CSVデータの入出力作業、及び活用データをCSVデータへ書き込む作業が必要となるが、簡単な操作ができるツールを開発し、事例紹介した。

今後も、本システムを使って皆様の業務の効率化が図れるような実務的な内容について研修会を進めていく。

#### 主な研修内容

表示パターンの設定、新規にユーザーレイヤを作成、作成した図形に属性値を入力、属性の一括修正、関連ファイルの設定

(参加団体:30団体 参加者:89名)



## ■ 小水力等発電導入技術力向上地方研修事業研修会 開催

11月24日、農林水産省の補助事業として、農業水利施設を活用した小水力等発電導入に係る県、市町村、水土里ネット等の担当職員38名の参加を得て、技術力向上のための研修会を、西濃用水土地改良区連合(岐阜県揖斐郡揖斐川町)のご協力により開催した。

研修内容は、同連合の小川事務局長より、小水力発電の取組について説明を受けた後、現地研修として、同連合が管理される岡島、揖西、揖東発電所を巡り、太陽光発電施設や小水力発電施設の概略や設置状況について説明を受けた。



小川事務局長による概要説明



岡島発電所(太陽光発電)での現地研修



揖東発電所(小水力発電)での現地研修

## ■ 農業用排水機県宮移管期成同盟会視察研修会 開催

9月15日～16日にかけて、ポンプメーカーである(株)西島製作所(大阪府高槻市)、洪水対策としての機能をもつ毛馬排水機場(大阪市北区)の視察研修会を開催した。

研修会には同盟会役員・会員等56名が参加、研修の1日目の西島製作所では、同社常務執行役員の犬山プラントエンジニアリング本部長による概要説明の後、同社職員の案内・説明により工場内を見学した。



毛馬排水機場



(株)西島製作所説明

また2日目は、毛馬排水機場にて、(株)近畿地域づくりセンターの山本支店長より排水機場の概要、一般社団法人近畿建設協会の小関氏より排水機の運転状況等の説明を受けた。

参加された方々は、2日間にわたり熱心に視察され、地域における今後の農業用排水機の維持管理等の参考となる研修となった。

なお、上記のほかにも大阪市西区の「津波・高潮ステーション」の事業視察も併せて行った。

## 入鹿池が「世界かんがい施設遺産」に登録

10月13日、フランスのモンペリエ市で開催されたICID(国際かんがい排水委員会)国際執行理事会において、全国最大規模の農業用ため池である入鹿池(犬山市)が世界かんがい施設遺産に登録された。

入鹿池は、全国最大規模を誇り、2市2町(犬山市、小牧市、大口町、扶桑町)に及ぶ642haの受益地へかんがい用水を供給している農業用ため池である。2010年(平成22年)に、農林水産省の「ため池百選」にも選定されている。

### 世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会(※ICID)が認定・登録する制度であり、平成26年に創設されました。登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています。

※ICID: International Commission on Irrigation and Drainage 本部所在地: インド、ニューデリー



# 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015

## ～入賞・入選作品決定 本県応募作品のうち17作品が入賞に選考～

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2015に、全国から7,163点、本県からは1,296点（うち団体応募5団体で1,208点）の応募があった。

この絵画展は、子どもたちに田んぼや農村に関心をもってもらい、田んぼ、水路やため池による水の循環や環境保全への理解をうながし、大人たちへのメッセージとして子どもたちのまなざしを届けることを目的として平成12年度から全国水土里ネットと都道府県水土里ネットが主催している。有識者による厳正な審査の結果、入賞作品23点、入選作品111点、団体賞作品42点が決定した。本県からは、入選17点が選ばれた。

なお、団体賞は、水土里ネット愛知用水、水土里ネット明治用水、水土里ネット豊田、水土里ネット豊川総合用水、茶屋新田地域資源保全隊が団体応募に参画し、愛知用水土地改良区理事長賞1点、水土里ネット明治用水理事長賞等1点、水土里ネット豊田理事長賞等3点、水土里ネット豊川総合用水理事長賞等1点、茶屋新田地域資源保全隊賞1点、計7点が選考された。



「わたしとたんぼ」  
神谷 蘭 小1



「おじいちゃんがつくったすいか」  
前田桃果 小1



「田うえのおじさん」  
大森煌莉 小2



「田んぼと山」  
宮地政宗 小2



「おじいちゃんとトラクター」  
角田大空 小2



「たけとよ町たまりつくり」  
岸川京介 小3



「おいしいお米になーれ」  
遠藤未来 小4



「楽しいしゅうかく」  
岩崎 董 小4



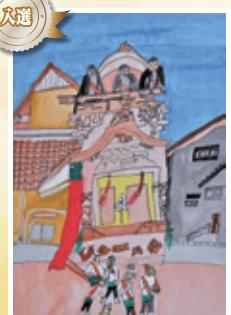
「秋のしゅうかく」  
村上萌々香 小4



「夏のめぐみ」  
杉山友理 小4



「下条の田んぼ」  
堀内彩希 小5



「武豊町の祭り」  
福田一吹 小5



「田園」  
伊藤拓海 小5



「近所の風景」  
上野蒼波 小5



「田植えを楽しむ自分」  
峯澤啓太 小5



「夕日の棚田」  
松本沙莉 小5



「田んぼアート2015」  
寺島壮太 小5

# 第14回 あいちの農業・農村フォトコンテスト

## ～大賞・優秀賞・入選作品決定～

本会主催、愛知県後援の「第14回あいちの農業・農村フォトコンテスト」の審査会を12月11日、愛知県土地改良会館7階大会議室で開催した。県内各地から、今回のテーマ「土地改良施設と歩む農業・農村」を表現した作品305点(149人)の応募があった。審査は、審査会規程第2条により実施され、7名の審査員による厳正な審査の結果、水土里のフォト大賞1点、優秀賞1点、豊かな農地あいち特別賞1点、多面的機能共同活動特別賞3点、入選10点の計16点が選考された。

なお、入賞・入選作品の展示を下記により実施しますのでお立ち寄りください。



審査会



★水土里のフォト大賞 「課外授業」(新城市)

撮影者:中川 晴男氏の作品は、表紙に掲載しております。



「玉葱収穫」(碧南市)

撮影者:犬塚 勝正



「薄化粧」(犬山市)

撮影者:井戸田 洋二



### 【展示場所および期間】

展示場所	展示期間(予定)	展示場所	展示期間(予定)
西三河県民相談室 (西三河総合庁舎1階)岡崎市明大寺本町1-4	平成28年2月2日(火)AM ～平成28年2月18日(木)AM	海部県民相談室 (海部総合庁舎1階)津島市西柳原町1-14	平成28年3月2日(水)AM ～平成28年3月11日(金)AM
東三河県民相談室 (東三河総合庁舎1階)豊橋市八町通5-4	平成28年2月19日(金)AM ～平成28年3月1日(火)AM	県庁本庁舎・西庁舎の 地下連絡通路	平成28年3月14日(月)PM ～平成28年3月25日(金)AM

## お知らせ

### ◎農業基盤整備資金の金利のご案内

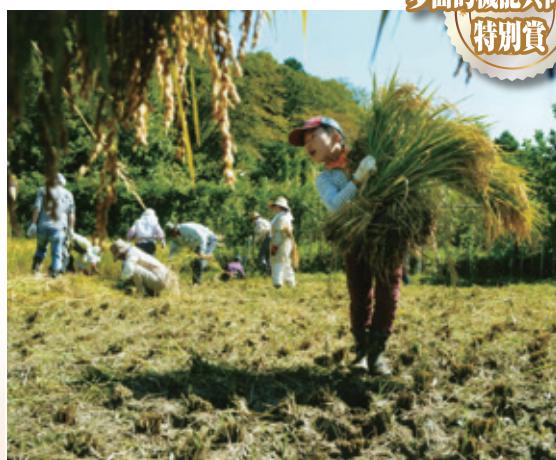
平成27年12月18日現在の日本政策金融公庫の農業基盤整備資金の貸付金利は次のとおりです。  
金利は金融情勢により変動します。

最新の金利は名古屋支店農林水産業農業食品第二課(TEL052-582-0745)にお問い合わせください。

区分	借入期間に かかわらず	利率一覧(平成27年12月18日現在)			
		融資期間別(一例)			
		5年	10年	15年	20年
県営補助残	0.85%	—	—	—	—
団体営補助残	0.70%	—	—	—	—
非補助	0.70%				
災害復旧	—	0.25%	0.35%	0.55%	0.70%

### ◎研修会のご案内

研修会名	開催日	対象者	研修場所
適正化事業加入団体現地研修会	1月15日	適正化事業加入団体(35期生～39期生)	岡島頭首工 西濃用水土地改良区 太陽光発電設備 粕川一ノ井水土地改良区
排水機管理担当者現地視察研修会	1月22日	農業用排水機県営移管期成同盟会会員	斎宮池 馬瀬ポンプ場
水土里ネット役職員研修会	1月29日	水土里ネット役職員	愛知県土地改良会館 7階大会議室



多面的機能共同活動  
特別賞

「農業体験」(岡崎市)  
撮影者・稻垣 日奈子



多面的機能共同活動  
特別賞

「野外学習」(安城市)  
撮影者・小澤 昌平



多面的機能共同活動  
特別賞

「悪水路の泥上げ、草刈り」(豊田市)  
撮影者・上和会環境保全会

# 迎春

本年もよろしくお願ひいたします  
平成二十八年 元旦

会長	神青	谷	金	衛	明治用水土地改良区理事長
専務理事	木瀬	瀬	章	雄保	学識経験者
理事	長市	市	一彦	一彦	北名古屋市長
〃	恒中	中	彦美	彦美	西福田土地改良区理事長
〃	浜澤	浜澤	田丸	徳四郎	宮田用水土地改良区理事長
〃	澤山	澤山	田廣	三雄	海部土地改良区理事長
〃	川上	川上	田口	文雄	孫宝排水土地改良区理事長
〃	柳原	柳原	万康	一郎	愛知用水土地改良区理事長
〃	三久	浦孝	正司	正司	幸田土地改良区理事長
〃	小久保	野知	英夫	英夫	矢作川南部土地改良区理事長
〃	横山	山光	明夫	明夫	西尾市長
代表監事	白木	木実	夫三	夫三	豊田土地改良区理事長
監事	早川	川健	直吉	直吉	みよし土地改良区理事長
〃	森下	下吉	直	直	豊川総合用水土地改良区理事長
					設楽町長
					鍋田土地改良区理事長
					油ヶ瀬悪水土地改良区理事長
					(副会長は欠員)

事務局長	長坪正	坂内弘	紀典忠	専門課長	監修長	鈴木	木野	生浩
事業部長	長横石	井川藤仁	忠宣仁	調整名	監修長	平近水	藤野	博浩
事業部次長(兼)整備課長(兼)施設管理課長	長加宇佐	藤仁忍	宣和弘	古宮海	監修長	桑池	山田	豊仁
総務課長	長佐竹	佐藤美下	忍和吉	支会半岡	監修長	小笠	原相嶋	一彦
計画課長	長竹	竹下	佐和吉	会田崎	監修長	異嶋	藤島	信守
技術指導	長監	監本	佐和吉	会幡豆	監修長	嶋伊戸	鹿芳	和啓
調査課長	長上	上村	義邦宣	会豊橋	監修長			三
調査課長	長部	部服	厚宣	会豊橋	監修長			

外職員一同

